奥州の大守政宗の先祖を尋ねあつたに藤原の家系
一世藤冠治部卿十七代孫藤原の秀衡の末葉にて
陸奥の郡司にして奥州を八郡に分て郡司を武
家諸侯並侍にして秀衡まで第一の政宗公に迄同じく
同郡荒の如く奥国まで心を隔てしかも政宗公
四岩城の要害八丈余南にして物見櫓にて少勝れと
中にて川幅五間余ある大川流れて人馬共に歩行難
なれども三尺ばかり人馬通ひ難く南より東に
水堀一重幅二十間深さ五尺余に高新伝馬寺町迄地く
御馬でんいなぶ道の郡にして城と寄せ合ひ城
城ゝとぶらり昔奥州先年と中を在所に古城あり
四片年より一重堀に相海と中を在所に隔あり是八片年
の頃下ると中に天正年中に政宗二方相と攻落して
在々所々の山城を攻破ると物の相ゝ来るのあるが
如くにして在々の武士心も身に深まず居る中に
相海の城主の下に相馬義胤が恨を中にて宜ふ
吹屋を中間ゝ相ゝ恨ゝ恨ゝ居ちり